

第1回つるおか SDGs 推進パートナーオンライン交流会 (概要)

- 日 時 令和4年4月22日(金) 午後4時30分から午後6時まで
- 会 場 オンライン (Zoom)
- 参加者 つるおか SDGs 推進パートナー 15 団体 別紙のとおり
野村総合研究所 (開催協力)
鶴岡市政策企画課 (事務局)
- 概要 参加者の自己紹介後、A から D の 4 グループに分かれ 2 つの議題についてグループディスカッションを行い、グループディスカッション終了後、各グループ毎、出た意見の発表を行った。

○主な意見等

①つるおかの好きなところ、いいところ、お勧めしたいところ

【A グループ】

- ・鶴岡の食文化は魅力的
- ・鶴岡から離れてみて、食べ物のおいしさを再発見した。
- ・四季が豊か
- ・風景 (海・山) と、人柄が良い。
- ・食文化創造都市をもっとアピールできると思う。
- ・鶴岡らしい SDGs のストーリーを展開していくのが大事

【B グループ】

- ・海がきれい。夕日もきれい。
- ・四季が豊か
- ・海、山、川の自然の魅力がある。
- ・歴史が育んだ人柄の良さ

【C グループ】

- ・自然が多い。山、川、海がありそれぞれレジャーができる。雪もある。
- ・ランニングをする時に走りやすい。スポーツ施設の利用料が安い。
- ・自然に限らず豊かな地域。食文化も豊か。人も優しく交流も活発に感じる。
- ・昆虫が多い (ホタル、カブト、クワガタ、ミンミンゼミ)
- ・赤川花火大会
- ・出羽三山

【D グループ】

- ・食文化
- ・人が優しい。

- ・出羽三山などの自然
- ・(職場) は転勤族が多いので、鶴岡にいてことができ羨ましいと言われる。
- ・羽黒山など、高いところから見る景色がきれい。
- ・夏も冬も楽しめる。
- ・飲食店が多い。ラーメン屋が多くおいしい。
- ・食文化や自然はもちろん、歴史もある。(酒井家など)

②官民連携、パートナー連携でつるおか SDGs 活動を盛り上げていくために何をしていくべきか

【A グループ】

- ・SDGs オリジナルのバッジなど、目につく形で、意識した取り組みをしていることをPRしたい。
- ・鶴岡(山形)からの発信が少し弱いと感じている。良いところをうまく伝えられていない。ストーリー性を持った提案が必要。
- ・CO2の削減なども若い人たちが自然に取り組んでいけるようになると良いと思う。
- ・各社各様の中で、バッジなどによる意識向上も大事だが、自治体も含め、「アウトプット」を出すことが必要。この会も、実のある会になるように進めてほしい。
- ・SDGsのムーブメントをつくることは大事だが、なぜSDGsについて考えないといけないのか浸透していないと感じる。SDGsについて考えないとまずいということ認識することが大事である。
- ・SDGsカードゲームなども開発しているので、浸透させるお手伝いもできる。
- ・必要なことのひとつは啓蒙活動。知ってもらうこと。
- ・自社だけでは取り組めないものについて、「パートナー」を見つけることが大事。
- ・この交流会が終わった後もつながること、コミュニティを作っていきたい。それがデジタル上で可能になる。

【B グループ】

- ・パートナーがバラバラではもったいない。ひとつ共通のアジェンダがあると良いと思う。
- ・自然を守る観点から何かやれたら良いと思う。
- ・SDGsの切口で貢献できる仲間を増やしていきたい。例えば、清掃活動。活動を共有できる仕組み、PRできる仕組みがあれば、それぞれモチベーション上がり良いと思う。
- ・お互いの取組を知ることが大事だと思う。
- ・横の連携、ネットワークが大事である。
- ・地域とのつながりが大事である。

- ・SDGs がもっと広まる活動をする必要がある。
- ・教育面の取組も重要。例えば、金融リテラシーやがん教育。
- ・鶴岡のために何ができるのか考える。例えば、思いやりだったり、清掃活動など。
- ・集まれるきっかけが必要だと思う。集まるにはどうしたら良いかを考える。
- ・友好都市である江戸川区との連携を検討する。
- ・グリーンカーテンなどの取組も良い。

【C グループ】

- ・地域に密着してやっていければ良いと思う。
- ・学生と連携して、地元で使えるような設備を一緒に開発していく。(市には) サポートや補助金等支援して欲しい。
- ・大学や他企業とのコラボレーション
- ・食品残渣など、鶴岡市固有のものを使っての商品開発
- ・災害が多い中、市と企業が一緒にどういった行動ができるのかなど、突き詰めたら、他の地域よりも安全・安心に生活できる基盤ができるのではないかな。
- ・民間の強さは、それぞれの企業が得意分野でスペシャリストとして、力を持っている部分。逆に公の強みは地域の皆さんに一気に展開できること。SDGs カードゲームを作っているが、簡単にSDGsがわかるツールを使って、SDGsを広められると良いと思う。そこで価値観を共有して仲間が集まってなにかできればいいと思う。
- ・パートナー登録する際に、自社の得意分野を意識して影響を与えそうな分野を選んで書き上げた。これは企業として考えただけであり、SDGsの本質は個人の問題が大きい割合になると思う。
- ・企業がやれば社員は自ずと義務になり影響は大きいと思う。パートナー企業をもっと増やさなければならぬと思う。
- ・正しいごみの廃棄方法を行うなど、ゴミの捨て方についても意識を変えていかなければいけないと思う。
- ・防災について、安全・安心着目してデジタルを使ってやっていきたい。防災の意識がなかなか上がらない中で、「いつのまにか防災」ということで、何か無駄遣いする際に防災にもつながるといった工夫を需要者側も意識しながら、そんな社会づくりができれば良いと思う。

【D グループ】

- ・地球の気候に左右されるような業種の場合、世界にも目を向けていくことが重要。
- ・今はプラスチックが悪いということになっているが、本当にプラスチックは悪いのか。もちろん紙にも良いところがあるが、プラスチックの再利用性や利用価値も探していくべき。
- ・企業や学校など全体でSDGsのことを深く知る機会が必要であると思う。

- 知ったことを今後の生活、活動に生かしていくことが重要である。
- パートナー登録したことにより、日常の仕事がSDGsに貢献していたということが「見える化」した。日々の仕事にやる気が出てくるので、具体的に洗い出すことが大事である。
- SDGsに取り組んだからこそSDGsを学べると思う。パートナー間で取り組んでいることを共有していくことがポイントである。
- SDGsを幅広く達成していくのがひとつの課題。ペットボトルやプラスチックを使わないことが必ずしも正解ではないかもしれない。それぞれの目的や着地点により正解が枝分かれしている。そこが難しいところであり、学んでいくべきことだと思う。